

社会共創学部プロジェクト基礎・実践・応用演習概要（2020年度実績）

産業マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
JR四国連携事業に基づく旅行企画・実施プロジェクト（地域観光チャレンジ）	四国旅客鉄道株式会社（JR四国）及び県内の観光産業関連企業	西村 勝志 岡本 直之	本プロジェクトは、地域活性化を根底に置いた事業で、受講生が地域の諸問題をテーマに、その解決を図るツアー企画を実施し、地域に埋没している様々な資源を発掘し、観光資源として活用し、学生らしい斬新なアイデアをもとにツアーの企画・実施を行うことで、従来にはない形でのツアー企画・実施するとともに、継続的な活動を通して観光産業の振興に寄与することを狙いとしております。
GO TO ミステリー EAT	なし	徐 祝旗	コロナ禍での飲食店経営は安定した来店者数の確保が必要である。本PJは松山市大街道エリアに位置する飲食業の実店舗を研究調査対象に、グループごとの共通食事券の発行を導入し、「GO TO ミステリー EAT」モデルを構築した。本PJはシミュレーションを用いて60日間の来店者の変動を把握し、定量的な分析を用いて、第一希望の超過率や、グループの平準化率を試算し、提案モデルの有効性を検証した。
オンラインショップでの販売増加戦略の提案	松山商工会議所および三洋興産株式会社	岡本 隆	柑橘の天然香料を使用したブランド「媛香蔵」を販売している企業と連携し、オンラインでの売上増につながる販売戦略を提案することがプロジェクトの目標でした。商品の特徴や市場の特徴、SNSなどの活用、リアルとオンラインの連携などのマーケティング戦略を導き出しました。
就職活動のオンライン化が学生と企業の行動に与える影響	ジョブカフェ愛work（愛媛県若年者就職支援センター）	曾我 亘由	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大学生の就職環境が変化しました。とりわけ、採用活動にオンラインが活用されたことで、学生・企業にどのような影響があったかを調査した。調査は愛媛県内の企業109社、および愛媛大学生212名に実施し、オンライン活用の有無が採用活動に与えた影響、学生が考えるオンラインのメリット・デメリット、企業選択で重視する項目等を調査し、コロナ禍における望ましい就職活動像を提示した。
テレワークの推進案	非公開	崔 英靖	新型コロナウイルス感染拡大や働きやすい環境づくりによる必要性の高まりでテレワークが注目されているが、導入に課題のある企業、対策の進んでいない企業も多い。そこで、「テレワークを導入しやすい企業の特徴は何なのか」「テレワーク導入企業を増やすにはどうすべきか」「ワークライフバランスはテレワーク導入で向上したのか」についての調査・分析を行い、テレワーク導入企業を増やす方策について検討した。
従業員幸福度と企業成長の関係	非公開	園田 雅江	従業員幸福度が企業成長と相関があるという仮説のもとに、アンケート調査やインタビュー調査を実施しました。従業員幸福度を、人事評価や自己裁量の自由度や柔軟性、ジェンダーに指標を定め、企業成長については売上高営業利益率、従業員数の増減、企業の認知度で調査した結果、強い相関を認める結果となりました。結果報告を動画で作成し、ご協力いただいた企業に公開し更なるアドバイスやコメントをいただきました。
若い女性にはこうやって売れ。—SNSを活用した砥部焼の魅力発信について—	なし	谷本 貴之	若い女性に浸透していない愛媛県の伝統工芸品「砥部焼」の売れる仕組みをSNSの視点で考えた。手作り体験と窯元インタビュー、Googleフォームでの調査により「実際の砥部焼」と「若い女性が抱くイメージ」のギャップを明確にし、女性心理を突いた魅せ方をマーケティングプロセスに基づいて研究した。若い女性の購買意欲をかきたてることで砥部焼のイメージを変化させ、新しいポジションを確立することを提案した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
新型コロナウイルスの影響と若者の健康・情報行動	非公開	折戸 洋子	新型コロナウイルス感染症の流行拡大がどのように報じられ、若者の健康行動や情報行動が変容したのかについて、新聞記事データベースの調査（2020年1月から5月）、オンラインアンケート調査（2020年8月）、専門家を対象とするインタビュー調査（2020年11月）によって検討した。また、若者の健康行動の促進要因やそのための情報通信技術の活用方法についても考察し、これらの研究成果はJournal of Ehime Management Society Vol. 4に研究ノートとして掲載されている。
若者へのオンライン詐欺とその対策に関する研究	IRC	廣垣 光紀	若者に対する詐欺とその被害が深刻な社会問題として注目されている。このプロジェクトでは、大学生や新社会人にアンケート調査を行い、どのような人口統計学的特徴、心理的特性を持つ若者が、どのような詐欺の被害を受けやすいのか調査した。結果、心理的特性の違いと被害を受けやすい詐欺の種類には強い相関が見られた。詐欺予防の啓蒙・広報活動は、画一的に行うのではなく、心理的特性の違いを考慮した多様なものにすべきであるとの結論が得られた。

### 産業イノベーション学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
スマの冷燻条件の検討	なし	松原孝博・後藤理恵・清水園子	我々のグループでは、スマの様々な加工法を検討しており、これまで燻製において高評価を得た。そこで今回は、スマ本来のおいしさを最大限に生かすことができる冷燻法を選択し、肉質、塩漬方法、風乾時間、燻製時間について検討した。その結果、個体の脂質量が約25%、塩漬は湿塩法、24時間の風乾、1.5時間の燻煙が最適な条件であることが明らかになった。今後は、スマの燻製にあった料理を考案し、燻製の長期保存が可能であるという特徴を生かし、スマの販路拡大につなげていきたい。
スマの可能性 ～スマのオイルサーディン風～	なし	松原孝博・後藤理恵・清水園子	スマの食材としての新たな可能性を拓くために、オイルサーディン風スマ(オイルスマ)の調理と、それを活用した料理の開発に取り組んだ。まず、オリーブオイル、キャノーラ油、ごま油の3種で調理したオイルスマを比較した結果、オリーブオイルが最も適していた。次にオイルスマを用いた料理を作り、試食を行った結果、一定の評価が得られたが、塩漬時間や保存方法、最適肉質、調理方法などの改善点が見られた。
南予の主要産業である練り製品から考えるカマボコの展望	なし	松原孝博・後藤理恵・清水園子	南予地方は練り製品の生産が盛んであるが、全国的にカマボコの消費量が横ばいまたは減少傾向に転じている。近年、練り製品は低脂肪たんぱく食品として着目されていることから、消費拡大のために、新たな風味のかまぼこの作成に取り組んだ。まず3種類の魚肉を検討した結果、風味、コスト共にエソが適していた。さらに、カレー風味やしそ風味などの6種の風味のカマボコを製作した結果、試食ではいずれも高い評価が得られた。
書道用紙における墨のにじみ方の解析 ～淡墨の基線とにじみを中心に～	なし	深堀 秀史	書道では、濃い墨を薄めた淡墨で表現する手法がある。淡墨では「基線」と「にじみ」が出来、紙の種類により出方が変化する。今回は楮のみの楮紙と淡墨に1番良いとされる中国の紅星牌を用い、基線やにじみが紙でどのような仕組みになっているのかを繊維の特徴、吸水性などの観点から仮説を立て実験を行った。それらの実験から得た結果から繊維の形状、吸水度が関係している可能性があることがわかった。
アルカリ処理した繊維が紙に与える影響	なし	深堀 秀史	授業で習った繊維の膨潤による紙質への影響について自分たちの手で調べるため、アルカリ条件下で紙を作製し、その強度や紙質の評価を行なった。用意したサンプルは未叩解パルプと叩解パルプをアルカリ処理有り、無しと分け、計4サンプル作製した。結果は、アルカリ処理を行うことで、強度の増加が見られた。また叩解の有無によっても違いが見られ、叩解を行った方が密度が減少しながらも強度は向上していた。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
販売促進に向けたみかんの新たな梱包 ～クッションペーパーの利用と強度の検証～	なし	深堀 秀史	みかんを箱買いすると、箱内でみかんにカビが生えることが多い。この改善策としてみかんの箱内での個包装を提案した。包装紙にクッションペーパーというネットのような紙を利用し、通気性の良さなどからカビの発生を抑制する。紙と聞くと脆いというイメージを彷彿とさせてしまいが、これにさらに編み目がついているとなると、より一層強度が足りないのではという不安が生まれた。よって、クッションペーパーの強度を検証した。
アルコールウェットシートの除菌効果 -除菌のひみつ-	なし	深堀 秀史	この1年でコロナ禍により人々の「除菌」に対する関心と需要が高まった。コロナ禍当初は除菌シートなどの除菌製品が一時店頭から姿を消すなどの変化も見受けられた。今回は除菌製品の中の除菌シートに着目し、「除菌」の定義は何か、実際にどれ程除菌出来ているのか、アルコール濃度がどのくらい含まれ、除菌効果が開封してからどのくらい持続するのか等を実験し、現状を考察した。
保湿ティッシュに含まれるグリセリンの定量分析 ～蟻に対する誘引効果について～	なし	深堀 秀史	ティッシュにアリが列を作って寄ってきてしまう。その原因は、保湿成分としてティッシュの中に配合されているグリセリンという成分が関係していると考えられている。そこで今回はグリセリンの量とアリが保湿ティッシュに寄ってくる量が比例しているという仮説を立て、アリの誘因試験とティッシュの成分分析を行った上で保湿ティッシュにアリが寄ってくるのは本当にグリセリンが関係しているのか考察を行った。
みかんの新たな梱包	八幡浜みかん農家	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	みかん農家の若松さんと出会い、「おいしく食べてもらうまで見守りたい」という思いや消費者のことを考えたこだわりに共感し、機能性を加えた新たなみかんの梱包を提案。クッションペーパーを使った個包装を取り入れることで、カビの発生・繁殖を防ぐ。また、近年平均世帯人数が減少し、1人や2人世帯が増加。個包装にすることで、そのまま職場に持っていくことができたり、お裾分けできたりと、食べきれず腐らせてしまうことを防ぐ。
木工糸鋸盤のNC化	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	ものづくりを趣味として便利に手軽にできるようにしたいという思いがあり、糸鋸盤を自動化することを目標に研究を行った。木材は金属に比べ入手しやすく、柔らかく危険も少ないため、障がい者施設での木工製品の製作や教育にも使えるのではないかと考えている。糸鋸の振動にも耐えられるように丈夫で安定するものを目指し、リニアガイドレールを2つ用いた構造を考えた。今後はプログラムを組み込み実験を重ね、実用を目指す。
菌数測定用培地を使用したカビ検出容器	なし	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	愛媛県の主要産業である、かんきつ業。収穫したみかんを消費者に提供する工程において、痛んだみかんを提供してしまった場合、信頼が落ち、評価が下がってしまう。それを未然に防ぐためのカビ検出容器の研究を作ろうと考えた。概要としては、日水製薬が開発した「コンパクトドライ」という菌数測定用培地を活用し、カビの検出ができる容器を開発するといったものである。現在はカビの検出法について試行錯誤中であり、まだ改善の余地がある状態である。
地域の味噌作りを支援するIoT技術の実装	田中屋	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	味噌職人の技術をデータ化して味の変化をデータとして保存していくというテーマで開発を行っていたが、実際に職人の方と話をしているうちに本来の課題が浮き彫りになり、テーマの変更を行った。職人の方が定期的に行なっている温度計測を自動化し、業務の効率化を図ることを目的に、熟成環境の可視化と異常を検知する機構の開発を行った。今後は実際に使用してもらい、職人のフィードバックを元に実用化を目指す。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
DeepLearningでごみを判別	株式会社金城産業	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	日本ではあまり知られていない世界のごみ問題を解決・注目してもらうことを目的としている。まず金城産業様にお話を伺い、システム化されていないゴミ判別に着目し、ごみ判別アプリを開発することを決めた。まず、授業内で学習したpythonでの画像判別処理で、ごみ自体を判別することは可能になった。しかし、画面の構造やKotlin上で画像判別をすることは出来ていない。なので、今後はKotlinを用いて画像判別の処理を組み込むということを進める。
GNSSを利用した電動車いすの自動走行システムの開発	株式会社アテックス	高橋 学 八木 秀次 山本 智規	交通事故減少を目的とし、アテックス社協力のもと、電動車いすの自動走行システムの開発を行った。電動車いすの車載ネットワークに使用されているCAN通信を利用することで車両の制御が可能となった。また、全地球航法衛星システム(GNSS)の信号をGNSS受信機を用いて受信することで高精度な位置座標を測位することができた。今後は、GNSSから取得した位置座標を用いて車両の制御を行うことで高精度な自動走行システムの開発を進めていく。

## 環境デザイン学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
松山市高浜小学校を対象とした防災教育	松山市危機管理・南海放送・松山市教育委員会・高浜自主防災会・防災リーダークラブ・松山市工業高校	二神 透	松山市高浜小学校6年生を対象に、防災まちあるき、防災マップの作製、防災マップの発表会をステークホルダーとともに実施した。12のグループに分かれてイベントを実施し、防災リーダークラブと松山工業高校の学生に、グループの取り組みを5件法で評価していただいた。グループの評価点と、グループの意識の変化を定量的に分析した。
愛媛県における避難確保計画に関する実態調査	愛媛県防災危機管理課・県内市町危機管理課・県内高齢者施設	二神 透	愛媛県内20市町の危機管理課が公表しているよう配慮者施設をGIS上に入力し、水害(計画水位、最大規模)、土砂災害、津波のハザードマップと重ね合わせることで、災害リスクの高い施設を抽出した。行政へのヒアリング、施設へのアンケート調査を通して、要配慮者施設に対する防災や避難確保計画の実態と課題を明らかにした。
上人坂の歴史と記憶	松山市道後温泉事務所、上人坂の関係者の皆様、ひみつジャナイ基地関係者	片岡由香	道後の宝厳寺参道として位置づけられる上人坂を対象に、今後の上人坂の将来像を検討していく上での場所性を理解するため、上人坂周辺にお住まいの住民の方や関係者の皆さんに「過去・現在・未来」に関するインタビュー調査を行い、その結果をひみつジャナイ基地にて展示した(2021年4月まで展示予定)
野村高校との菜園エリアの 実現に向けた支援 一のむら復興まちづくりデザインWSを通して	西予市、野村高等学校	松村暢彦	平成30年7月豪雨の被災地、西予市野村地区では地域のステークホルダーとともにのむら復興まちづくりデザインワークショップを開催し、復興に向けて基本計画、基本設計を進めている。このプロジェクトでは野村高等学校が主体となって被災エリアの一部に菜園をつくることになっており、高校生、市役所と協働でその空間設計だけでなく、新商品の開発や食育プログラムによる学習ツアーの企画など運営面での検討を進めた。
・地域別土砂災害警戒区域分布状況と災害リスクに関わる各種パラメータの相関分析 ～広島県と香川県対象に～ ・地域別土砂災害警戒区域分布状況と地形地質的関連性 ～愛媛県・大分県・島根県対象に～	なし	バンダリ ネットラ ブラカシュ	近年豪雨による土砂災害が頻発しており、甚大な被害を齎している。全国各都道府県において土砂災害危険区域(警戒区域・特別警戒区域)が指定されているが、これらの指定方法は地形なものであり、地域的区別がつかない。そこで、これらの土砂災害ハザードマップを基に、地域の地形地質的特徴も把握しながら、土砂災害危険区域の特徴を理解することを目的としている。また、これらのことを学び、土砂災害に関する理解を深め、自分の関心のある地域の土砂災害発生危険度を理解し、将来的に災害対策や減災に向けた研究への動機付けを目指している。
西予市地域づくり活性化の取り組み:「地域スーブ」づくりによる地域ブランディング	西予市まちづくり推進課、地域づくり組織、地域住民等	羽鳥剛史	西予市では平成23年度より「せいの地域づくり」事業を開始し、市内27エリアに地域づくり組織を設置し、住民主体のまちづくり活動を推進している。本プロジェクトでは、地域資源を活かしたご当地スーブづくりに地域住民と共に取り組み、スーブ開発を通じた地域らしさのブランディングを進める。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
西予市宇和地区におけるツル類・コウノトリの保全活動：ツル類・コウノトリをシンボルとする環境まちづくりへ向けて	西予市環境衛生課 日本野鳥の会 日本野鳥の会愛媛 ノヤマカンパニー	渡邊敬逸	西予市宇和地区に飛来するツル類・コウノトリの保全活動について、既存資料の分析、関係者へのインタビュー、市民へのアンケート調査の分析などを通じて、西予市におけるツル類・コウノトリの保全活動の現状と展望について検討し、西予市におけるツル類・コウノトリをシンボルとする環境まちづくりの可能性について論じた。本プロジェクトの成果は西予市立図書館にてポスター発表を行った。
ジオパークを活用した持続可能な地域イノベーションー四国西予ジオパークを事例としてー	愛媛県西予市役所総務企画部まちづくり推進課ジオパーク推進室	榎原 正幸	四国西予ジオパークの魅力を発信する手段としてのSNSの有効性を調べるため、地元のステークホルダー（SH）の協力を得てインスタグラムを活用した。内容を充実するため、複数回現地調査を行った。現地調査ができない時はSHからオンラインによる情報提供を受け、それによりSHと一層連携を深めることができた。
北条地区粟井川流域における土地利用と土砂崩れとの関係解析とハザードマップの作成	松山市北条地区果樹農家	大森浩二	2018年の西日本豪雨により、北条地区粟井川流域では多くの箇所です砂崩れがあり、地形的特性及び土地利用と土砂崩れとの関係を見たところ、一定の傾斜をこえた竹林と果樹園で土砂崩れが集中していた。果樹の密度についても検討したところ、一定の傾斜を越えた所で公的機関が推奨する生育のための適正樹冠距離3mだと土砂崩れの危険性が高まることが明らかとなった。現地の聞き取りで、樹冠距離の指導がありそれにしたがっているとのことであった。

#### 地域資源マネジメント学科農山漁村マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
子育てグループ「のびのびプラタナスの会」の活動分析と今後へ向けた提案	かりとりもさくの会の のびのびプラタナスの会	笠松浩樹	西予市明浜町狩江地区の地域づくりグループ「かりとりもさくの会」で活動をしている子育てグループ「のびのびプラタナスの会」の利用者へのアンケート、地区内児童への聞き取り調査をもとに、成果と課題を分析した。その結果をもとに、学生達がグループの今後の活動に必要な事柄を提示した。そこでは、気軽に親子が集まることのできるイベントの開催、遊び道具の寄附制度、親がくつろぐことのできる簡単な設備の配置などが挙げられた。
集落活性化意識醸成支援事業（渡江）	西予市 愛媛県企画振興部地域政策課 えひめ地域政策研究センター	笠松浩樹	西予市明浜町渡江地区において、地区住民との協議の結果、柑橘類とその加工品の販売サイトの立ち上げ、移住者やワーケーションを進めるための動画制作を学生が実施することとなった。学生達は継続的に関わっていくこととし、主体的に学生団体「未完商店」を立ち上げ、授業以外の時間も現地を訪問し、これらの作業に携わった。今後も地区での活動を続けていくため、空き家を改修し、補修のノウハウを修得するとともに拠点整備を行った。
集落活性化意識醸成支援事業（横林）	西予市 愛媛県企画振興部地域政策課 えひめ地域政策研究センター	笠松浩樹	西予市野村町横林地区において、シイタケ生産、JA撤退後の店舗経営、地形、農業等に関する状況把握を行った。さらに、これらに基づいて学生達が地区の特徴を挙げ、地形、農畜林産物、河川、かつての暮らし、食、樹木等を題材に冊子にまとめた。オンラインでその結果を報告するとともに、「山村に住む意義は何か」、「地区に何があれば来たいと思うか」についての意見交換を行った。
集落活性化意識醸成支援事業（吉海）	今治市 愛媛県企画振興部地域政策課 えひめ地域政策研究センター	竹島久美子	今治市吉海地区において、地区の地域資源、活動団体、JA店舗における直売事業、移住者による起業・創業の取り組みについて調査を行った。地区が将来展望を考えるなかで、この地域はどんな地域なのかなど、全体像を把握する視点が欠けていることを学生の目線から指摘し、今後の地域活動に活かしてもらうために意見交換を行った。
集落活性化意識醸成支援事業（奥松瀬川）	東温市 愛媛県企画振興部地域政策課 えひめ地域政策研究センター	竹島久美子	東温市奥松瀬川地区において、地域の拠点施設を借りながら、地域資源の掘り起こしや、地区内の活性化のために住民が活発に活動できている背景などを掘り起こすヒアリングを行った。学生との意見交換を通じて、活発に活動している理由としては、地区の持続性に対する危機感を共有できているためであり、まずは自分たちが楽しみながら地域に住み続けたいと実践していることがわかった。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
集落活性化意識醸成支援事業（豊之浦）	伊方町 愛媛県企画振興部地域政策課 えひめ地域政策研究センター	山藤篤	伊方町豊之浦地区において、地元の地域活性化グループ（SKN）のメンバーとともに現状の課題と解決に向けた活動を行った。活動内容は①これまでの取組のまとめ（課題の抽出）、②今後の目標の設定、③提案、④フィールド調査、⑤意見交換会である。住民による新聞の発行を再開する、壁画アートを進めることとなった。一方で、「住民間の温度差」・「継続性」などが今後の課題となった。
農産物流通の実態と課題	松山市中央卸売市場 越智今治農協（JAおちいまばり）	山藤篤	農産物の流通は、市場流通と市場外流通に大別される。「市場流通」では卸売市場の現状について、松山市の取り扱いを品目別に統計から明らかにした。「市場外流通」では、全国でも売上規模がトップと目される農産物直売所「さいさいきて屋」の事例から、取組の実態と課題を店長らとともに意見交換を行った。

### 地域資源マネジメント学科 文化資源マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
松山市都心盛り場の変化ーコロナ禍影響と展望も踏まえてー	松山市大街道・銀天街商店街	寺谷亮司	松山市中心部の商店街及び飲み屋街の現状を明らかにし、長期的変化と短期的変化を明らかにした。具体的には、調査範囲において、ゼンリン住宅地図(2019.12 現在)の内容と比較し、建物卓越業種、営業状況等を調査した。なお、調査成果については、報告書を作成した。
瀬戸内沿岸地域における文化財の保存・活用に関わる研究	今治市, 西条市, 上島町	村上恭通 植林啓介	①今回の調査では、瀬戸内海沿岸地域（愛媛県の上島町・今治市・西条市）を対象にして、各地域の行政及び地域住民による文化財の保存活用事業を調査し、その活動の現状をまとめることで、文化財の保存活用の現状や地域住民と文化財の関係を把握した。②今回の研究では、文献調査、現在の所有者、来島城跡の保存団体、遺跡の整備に関わる行政組織などへの聞き取り調査、さらに城跡の保存整備の現況、島での生活の様子などについて現地調査を行い、来島城跡と地域の方々の関わりの来歴を調査し、城跡、及び城跡を取り巻く地域の関わりや、その時代ごとの移り変わりなどについて明らかにした。
旧森林鉄道の実態と人々の暮らしに関わる調査と活用法の検討ー内子町小田地区小田深山を事例にー	内子町教育委員会, 内子町小田地区	井口梓	愛媛県内子町小田地区小田深山を研究対象地域として、旧森林鉄道とそれにまつわる歴史文化を記録・収集し、文化資源マネジメント実践としてマップ・動画の制作と旧二宮邸で小学校との連携授業を実施した。具体的には、古写真や空中写真、地図、聞き取り調査をもとに、高知営林局2級森林鉄道が敷設されていた淵首から獅子越峠までの軌道跡の調査、及び淵首、楠小屋、六郎、温水、獅子越峠、宮原土場等の林業関連施設及び林業集落の復元を行い、調査成果をもとに別添の「木々を歩くマップ」（小田の里巨樹巨木を思う会と協働）を刊行した。現在、動画「木々を歩くガイド動画」を制作中であり、4月に公開予定である。また二宮邸での二宮幸己氏に関する共同学習では、2年間の調査成果を踏まえた『ふるさとのいじん・二宮幸己さん』を制作・出版した。
Instagram を活用した「フォトミーティング」による地域の魅力発見・発信の成果と課題ー愛媛県中予地方での活動を通じてー	愛媛県中予地方局	淡野寧彦	愛媛県中予地方局が実施する「大学生等による中予の魅力フォト発信事業」内の「フォトミーティング」に参加し、中予地方の3市3町（今年度は松山市、松前町、久万高原町）を訪れて、地域の魅力の発見や PR 方法の検討に加わった。具体的には、事前の打ち合わせを経て決定されたルートを回り、撮影講師の指導を受けつつ、各地の魅力的な写真を撮影し、これを#chuyonavi などのハッシュタグを付けて Instagram に投稿した。合わせて、活動への参加を通じて、当該事業が地域の魅力発信を促すためのものとしての成果や課題について検討した。

地域資源マネジメント学科 スポーツ健康マネジメントコース

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛媛マラソンのブランド力向上プロジェクト	愛媛マラソン事務局・愛媛県県民環境部県民生活局男女参画・県民協働課ほか	山中 亮	地域の誇るスポーツイベントのブランド力向上プロジェクト「スポーツボランティアの充実に向けた取り組みを通して」 【データ分析と改善案の作成】プロジェクト基礎で実施した現状把握をもとに、愛媛マラソンのブランド力向上につながる改善案の作成に取り組む。
愛媛県伊予市におけるシニア層を対象としたスポーツヘルスプロモーション	伊予長寿介護課、伊予市下灘地区	牛山真貴子	愛媛県伊予市長寿介護課と連携し、伊予市のシニアの介護予防事業として、双海町下灘で計6回の運動教室を実施した。71歳以上のシニアの運動教室では、それまで主にグラウンドゴルフが実施されていたが、本研究では、「フライングディスク」「ポッチャ」「頭と身体の体操」など、新しい種目を導入した。実施中、2回のアンケート調査を行い、その結果、運動習慣のあるシニアは運動に対して「気分転換」、「ストレス発散」、「健康になる」ことを目的として運動教室に参加していたことが明らかになった。また、女性のほうが男性よりも「友人に会える」を目的として、運動教室に参加している現状が考察された。
愛媛県伊予市ヨソモノ視点からの魅力発掘事業	伊予市未来づくり戦略室 伊予市三秋	牛山真貴子	本研究は、愛媛県伊予市と連携し、伊予市の移住促進のための新たな魅力発掘に取り組んだ。新たな魅力を発掘する中でグリーンツーリズムとしてのレンコン掘りイベントと地域内外の交流の場となる空き家の活用に見出した。本研究が今後の三秋地区の発展と、関係人口の増加や移住促進の成功例として結果を残すことができる。他の地域に良い影響を与えることができる。そのような未来を心から期待している。
地域とスポーツをメディアでつなぐプロジェクト	愛媛CATV	野口一人	本プロジェクトでは、愛媛CATVで放映する番組の企画・撮影、および愛媛CATVが運営する地域イベントへの参画・補助を行なっている。2020年度は、愛媛CATVが運営に協力している「サイクルロゲイニング大会」にスタッフとして参加した。参加するにあたり、事前に愛媛CATVと大会実行委員長との遠隔ミーティングを行った。大会当日、大会の受付と案内担当、および高校生の保護者として実際にロゲイニングに参加した。また、参加者を対象にアンケート調査を行った。アンケート調査結果より、運動習慣が無い参加者も見受けられた。今回参加したサイクルロゲイニング大会のような、老若男女問わず参加できるスポーツイベントを定期的に開催することは重要であるとの結論に至った。
「運動不足の人がゼロ社会」の実現を努力目標に据えたプロジェクト	松山市シルバー人材センター	山本 直史	今期のプロジェクトは、高齢者の筋力の維持・向上をメインテーマとし、COVID-19の感染予防対策による外出の自粛に伴う運動不足問題の解消を目指した。具体的な活動としては、日本運動疫学会の公式声明「新型コロナウイルス感染症流行下の身体活動・座りすぎ対策」を、その内容を一般人に分かりやすいように要約し、具体的な実践方法を提案した。これらの情報を松山市シルバー人材センターの会報を通じて3度、会員へ提供した。さらに、運動の実践状況・嗜好別の推奨運動をまとめたリーフレットを作成した。
住民を対象としたスポーツ教室の企画・運営・指導	松山市文化・スポーツ振興財団(松山市コミュニティセンター)	浅井 英典	松山市・文化スポーツ振興財団と協働したスポーツ健康事業の企画・運営・実践 <取り組み内容：課題解決に向けたスポーツ健康事業の企画・立案・実践、情報収集・分析、評価・振り返り> ・課題解決に向けたスポーツ健康事業の企画・立案及びその実践 ・指導者及び参加者へのインタビュー及びコミュニケーションを通じた情報収集・分析 ・スポーツ健康事業の振り返りと活動に対する評価の実施 ・プロジェクト基礎演習として活動している2年次学生への指導

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
道後湯けむり遍路道ツデーウォーク体験及び安全性などに関する検討プロジェクト	NPO法人『えひめ高齢者ヘルスプロモーション』、道後湯けむり遍路道ツデーウォーク実行委員会	高橋 敏明	令和2年11月22日に四国お遍路の一部である久万高原町の古岩屋荘から道の駅さんさんまでの12Kmのコースを構成員7名と一般参加高齢者4名で体験し、体調バイタルチェック（血圧、脈拍、パルスオキシメーター（SpO2））及び歩数を検討した。その結果、SpO2は、主観的なしんどさと異なり、体調の判断として定量的かつ客観的な数値が分かり、指標の一つになりうると思われた。今回の参加者は特に体調の変化や測定による異常所見はみられず、高齢者にも安全な歩行路であることが確認された。

(2020年度実績)